

水稲育苗ハウスを利用した園芸への取り組み

湖北農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

平成22年10月に法人化した“近江飯ファーム”(旧：飯宮農組合)は、水稲育苗ハウス(225㎡)を有効に活用するため、以前より5月の苗の搬出後、メロン、トマト、イチゴの施設栽培に取り組んでいます。しかし、園芸品目は水稲、麦などの従来作物に比べて管理技術が難しく、不慣れなことから、生育不良や病害虫の発生等の影響により収量の上がない状況でした。

本年は過去のミスを繰り返さないため、ポイントとなる時期を重点的に組合長や主に作業を行う農家女性を対象に病害虫の発生を観察するなどの指導を繰り返しました。



イチゴの芽かき作業を行う組合長

【普及活動の成果】

適期作業、適期防除の励行により、どの品目も生育は順調に推移し、特にメロンに関してはうどん粉病の発症も昨年度に比べ軽微な結果となり、一玉平均1キロでやや小さかったものの商品化率は昨年の59%から94%へ向上しました。



販売用のイチゴとトマト

イチゴは、昨年度炭疽病の育苗段階での発症から本ほハウスでの激発により全滅に近い状況でしたが、当課で作成した炭疽病チェックシートを活用して感染防除の徹底を行うことで、育苗から定植後の栽培期間中も疑わしい症状も見られず、年明けの1月5日から収穫が始まっています。

トマトも1月中頃まで収穫が行われ、これら農産物は庭先販売、道の駅など直売所へ出荷することができ、将来的にはこれまでの経験と実践を活かして、色々な品目にチャレンジして地元へ供給できる地産地消をより実践したいと考えておられます。